



せんたいメディアワーク
二階に開設された「3がつ11
にちをわすれないためにセン
ター」(通称: わすれん)
[\(http://recorder31.smtp.jp/about/\)](http://recorder31.smtp.jp/about/) は、「発信はさまざ
まな支援活動を応援し、記
録は未来への財産となるよ
うに。」を合言葉に、市民、
専門家、スタッフが協働し
て東日本大震災からの復興・
復旧のプロセスを記録保存
し、独自に発信するための
センターとして動き出しま
した。

式に「わすれんゾウ」を非公式マスコットキャラクターとして認めるなどとなりました。ここ数年全国的に流行しているいわゆる「ゆるキャラ」の一種で、センターの略称である「わすれん」と動物の「象」、そして忘れないための「忘れんぞう！」という強い意志を上手く掛け合わせたキャラクターに仕上がっています。

これから多くの市民に親しまれるであろう「わすれん」「わすれんゾウ」がより多くの市民とのゆるやかな架け

橋となることでしょう。制
活編集支援室では「わすれ
んゾウ」を応援します。が
んばれ！がんばれ！わすれ
んゾウ！！

わすれんじゆ
誕生

6月18日の19時より、中崎と説明参加者数名は、smtスタッフと共に仙台市内の某中華料理屋で交流会を兼ねた今後のネタだしをおこなつた。ネタだしのネタは、smtスタッフとシユのようなものだと、ぶーぶー鼻をかみながら言う中崎氏の半ば強引な誘導によつて、参加者の奇天烈な欲望があふれ出した。そのいくつかを紹介しよう。
smtの屋上は花火がよく見えるはずだといふ、smtスタッフの内に秘めたビアガーデン化願望により、8月5日の花火の際には、花火を音だけで中継するラジオを決行することとなつた。また、それにつづいて、説明会の参加者S氏の長年のおもてなしの場所であるsmt屋上庭園妄想が展開され、ブドウやヘチマの栽培が夢見られたのである。さらには、完全に見た目との判断ではあるが、参加者のK女史の前髪が揃っていたことから、サングラスをしてほほ無言のまま宅録されたノイズミュージックなどを再生し配信するというラジオのコーナーも誕生した。また、奇想天外という意味では、参加者のよしひろ氏がぶち上げた、即興シルクドソレイユ新聞も捨てがたい、これは天井ぶら下がりながら新聞を書くという、まさに頭に血が上った企画であつた。

に一度観光で訪れたことがあるような気がするのだけど、さすがに20年くらいたつてるのでこれまたほとんど記憶はない。6月19日の日曜日のことである。説明会＆交流会の翌日、このところ何度も仙台に来ているのに、ほとんど市内をまわっていないということで、ちょうど仕事が休みな某斎藤氏にいろいろ連れ回してもらう。典型的な観光地でも行つてみようとして政宗に会いにきたわけだが、なかなかいい眺めだつたり、武将コス

小学校の低学年くらいの年頃
だつたどうか、大河ドラマで「独
眼竜正宗」が放映されていた。た
ぶん伊達政宗を若かりし渡辺謙が
演じていて、わりとよく見ていた
記憶がある。とはいっても内容は
ほとんど憶えてあるわけもなく、
ガキの頃の名前が梵天丸だったと
いうのくらいが頭の片隅に残つて
いる。そんなことが僕と伊達正宗
のファーストコンタクトなわけだ
けど、いよいよもつて青葉城にて
再会を果たす日がやってきた。こ

政宗 vs 大觀音

は「シャンプー〇〇円」といつた張り紙を見かけるようになる。私も試してみた。初めて利用するその散髪屋が入居しているビルはオール電化で、お湯が豊富に使えた。人々の洗髪。ラス人に洗つてもらう心地よさ。至福であります。それから数日、また頭がもんやりしてきた。ふと、日頃利田している散髪屋はどうなつていてるのか、気になつた。あわてくば散髪もされたい！電話してみると営業しているとのこと。ちよつと伸びすぎた髪を切つてもらい、いざ洗髪タイム。だけど様子が変。お湯に勢いがない。なるほど、沸かしたお湯をペットボトルに詰め、手動で垂らしながら洗髪している。しかし、あなどるなれ。最初の違和感を過ぎるとこの方法この感覺、以外に心地が良い。ちよろちよろと自分の顔面から垂れるお湯。何かに似ている。そうだ頭から水をかけられたお地蔵様、あるいは墓石だ。「おじいちゃん、暑かったでしょう」なんつって墓石に水を優しくかけたものです。お地蔵様おじい様、今ならわかります。水（湯）を頭から優しくかけられるその心地よさ。

震災でお地
蔵様の気持を
を知った。3
月11日後しば
らく、多くの
人たちを悩ま

の度にどうぞ心怠気で、絶縁したことにしてしまったのかといつたことに思いを巡らすが決まって結論には辿り着かない。印象論ではあるんだけど、感覚として7割廢墟つてかんじ。営業はしてるはずなんだけど、どうしようもなく廃墟感が漂っている。絶妙な微妙さが最高で、京都の由緒ある古寺を訪れるようなテンションになってしまった。ありがとう大観音、またあなたに会いに来ます。後日談なんですが、宮城在住の漫画家、いがらしみきおさんが短編集中

でこの大観音をモチーフにしたたかが品があるらしいと噂を耳にして読んでみた。「ガンジヨリ」という編集の中にある「觀音哀歌（かうんあいこ）のんエレジー」。ものすごく省略した話の流れとしては、突如として大観音が動きだし、自衛隊の攻撃とかも受けながら、六本木ヒルズに辿り着く、といつたなかなかめちゃくちゃな話である。安直比較ではあるが、最終的に花の江戸のど真ん中にそびえ立つた、観音の勝利、ということでいかがでしょうか？



スペクタクルの噴泉

い川
地平線の街方まで泡
泉があり、滝壺が浴槽に
また、自分の好きな場所に
自分仕様のマイお風呂をつ
くることができます。

卷之三

と、いうわけで制活新聞記念すべき第0号です。まずは中崎氏やsmtスタッフ、そして一部の参加者によってテスト号として制作し、無事発行に漕ぎつけたことが出来ました。拍手をして握手。編集長つてイスの上にデデーンと座りながら、皆が持つてくるネコにダメだしをしたり、取材を行つて来い！と指示を出しながらおかつ1面のトップ記事を独断で決定できたり、いつの権力を持つていてるのかと思いつきや、パソコンに向かいながらほとんど使つてることのないInDesignと格闘しているのが実状です。

説明会が終わつた後でも一体何をするのか分からぬとい、活動内容を分かり易く伝えて欲しいなどの声が各方面からあがつている中崎氏本人も「僕も良くわからない」と言い参加者をお油断させていますが、そのメガネの奥には、綿密に構築された壮大な計画がなされているに違いありません。「制活」の文字が辞書に載るその日まで。



制活

市民参加型の長期ワークショッププログラムです。講師となるゲストアーティストは水戸を拠点として活動している中崎透さん。日常を素材にして、ちょっと違った視点が見えてくる作品を作るアーティストです。私たちの日常の中には様々な制作活動や編集行為が潜んでいます。ちょっとした本棚や食器棚の並べ方だったり、心地よい椅子の高さの選び方、有意義な一日を過ごすためのスケジュール作りだったり。そんななんでもないことを、一緒に話して、集めて、歩いて、手を動かしてみたりしませんか？月1ペースでのラジオ放送と、手作りの新聞発行を目標に年間を通して活動をします。

今後の予定

- ◎7月 7-8日／1号のミーティング
 - ◎8月 1-3日／1号の制作・発行
2号のミーティング
 - ★ラジオ放送 第1回
8月2日 第1部 13:00-15:00
(ゲスト：毛原大樹)
第2部 18:00-19:00
 - ◎8月 5日／七夕花火の配信
 - ★ラジオ放送！（七夕特別企画）
8月5日 19:00-19:45（予定）
 - ◎8月 29-31日／2号の制作・発行